

## 平成18年度石川県社会教育委員の会議における意見の概要について

【協議テーマ】 家庭や地域における子どもたちの育ちの環境について

【協議経過】 第1回 平成18年7月11日 第2回 平成18年11月1日  
第3回 平成19年1月16日 第4回 平成19年2月21日

### 【主な意見】

#### 1 現状について

- (1) 親の生活に合わせているため、子どもの就寝時間が遅くなっている。また、朝起きられず、朝食を食べないで通園する保育園児もいる。子どもに対する大人からの「制約」が緩くなり、規範やルールに対する意識が曖昧になっている。
- (2) 異年齢の集団の中で活動したり、地域の大人や高齢者と交流したりする体験を通じて、豊かな人間性や社会性を身に付ける機会が子どもに少なくなっている。
- (3) 地域の中で家庭が孤立し、さらに親が教育としつけに自信を失って、家庭の中の基本的な生活習慣が壊れている面が見られる。「自分の子どもは自分できちんと育てなければならない」という意識が低下しているように思われる。
- (4) 地域の活動にとって大きな戦力になる団塊の世代に、活動に参加してもらうためのきっかけづくりが不足している。
- (5) 大人社会の価値観や感覚がそのまま子どもに持ち込まれ、携帯電話やテレビ等のメディアが身近な存在となり、子どもの心や生活に大きな影響を及ぼしている。

#### 2 課題と方策について

- (1) 子どもの暮らし方と生活リズムについて  
「早寝・早起き・朝ご飯」は、子どもの生活の基本であり、あらゆる分野で協力し合って、その運動に取り組んでいく必要がある。  
また、親に対する相談体制や学習の機会を整え、子育て支援を通じて、子どもの生活リズムを整えることに努める必要がある。  
子どもに規範意識を持たせるためには、就学前に親が責任と勇気を持って基本的なしつけを行うことが必要であり、その啓発活動を行う必要がある。
- (2) 子どもの体験活動について  
地域の大人との交流により、子どもが大人の考え方や職業について理解を深める機会を作るとともに、自然体験を通じてたくましく育てる必要がある。  
異年齢集団の中での交流や高齢者と接する機会により、他者への思いやりや慈しみの心、コミュニケーション能力を育てる必要がある。  
高校生の地域活動を推進し、ボランティア活動等を通じて、社会に貢献することの楽しさを学ばせる必要がある。
- (3) 家庭教育について  
子どもの健全な育成のためには、啓発資料の配布や学習機会を設けることにより、積極的に親に働きかけ、家庭の教育力の向上を図る必要がある。  
社会教育関係団体等との積極的な協力により、地域における「人と人とのつながり」の中で家庭教育の支援を行って行く必要がある。  
母親だけでなく父親も参加する行事・事業を地域に広げ、親自身が体験を通して子どもの教育について考える機会を設ける必要がある。
- (4) 団塊の世代について  
団塊の世代の社会参加を前に、地域や子どもたちの実態を実際に見て学んでもらう機会を作る必要がある。  
団塊の世代が家庭教育や子育て支援に積極的に協力できるような体制作りについて検討する必要がある。  
学校や公民館等で地域の「人材バンク」を作り、学校や地域の教育活動において、団塊の世代の力を活用する必要がある。
- (5) メディアへの対応について  
子どもにとって身近な存在となったメディアが子どもに及ぼす影響を大人が認識し、その危険性を常に訴えるとともに、健全育成についてメディアの側にも協力を求め、社会全体で子どもの成長の環境を整える必要がある。